

# 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2024年12月  
結果公表日: 2025年3月27日

## 回答率

事業所職員: 3名回答、回答率 100%  
保護者様: 18名回答、回答率 81.8%

## 職員の意見

### ○環境・体制整備

- ・環境に関しては、教室の外から一部室内が見えてしまっている箇所があるため、目隠しシートを貼る等の改善が必要である。
- ・職員体制に関して、同じ時間帯に送迎が重なるとドライバーが不足する時があるため、法人内の近隣教室と引き続き連携し、送迎の調整の工夫は必要である。また、主に送迎の時間帯において教室内の職員数が限られてしまうことによって、安全管理の目が行き届きにくいこともあるため、職員の配置の工夫をおこない対応している。

### ○業務改善

- ・支援前にミーティングの時間を設けることで職員が同じ認識の上で個別支援計画に沿った支援ができるように努めている。支援終了後のミーティングは送迎や勤務時間の都合上、取れてはいないが今後5分～10分でも取れるよう工夫の検討は必要である。

### ○適切な支援の提供

- ・個別支援計画に沿って、利用者と保護者のニーズに合わせて支援を行うことができている。
- ・集団療育は利用者を楽しんでもらえるような活動や利用者の自立に向けた活動を多く取り入れている。利用者の定着や確実なスキル獲得などのため、決められた活動を多く取り入れているが、今後は新しい活動を取り入れ、様々な集団療育や個別課題を提供できるよう努めていく。

### ○関係機関や保護者との連携

- ・保護者との連携は送迎時や電話等を使用し、常に行っているものの、安全管理と非常時の対応やマニュアル等の内容についての周知や十分な説明は足りていないため、周知や説明方法の工夫の検討が必要である。
- ・関係機関との連携においては電話にての連携は行っているが、対面での連携は行えていないため、対面でも実施できるよう連携方法の検討は必要である。

### ○保護者への説明責任等

- ・主に送迎時に、保護者との連携を行っている。
- ・事故や怪我があった時の説明は状況・状態をきちんと伝えている。

### ○非常時等の対応

- ・月に1回、災害時対応として地震、火災、水害など様々なケースを想定して訓練を行っている。
- ・研修の参加やマニュアルはあるものの保護者に十分な周知を行えていないことが課題であるため、周知方法について検討は必要である。

## 保護者様のご意見

### ○環境・体制整備

- ・環境については、「広々とした教室であるため子供が活動しやすい」「恵まれた環境だと思う」との意見をいただいた一方で、「階段に手すりがなく大人でも上りづらい」との意見もいただいた。
- ・職員体制については、「職員さんには大変良くしていただいている」「職員さんが大変そうと感じる」「安全面を確保するとすると、本当に大変だと思う」との意見をいただいた。

### ○適切な支援の提供

- ・「こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか」との項目において、全ての方から「はい」との回答をいただくとともに、「保護者の意見を聞いて支援をしてくれます」とのご意見をいただいた。
- ・「放課後児童クラブや地域の他の子どもとの交流」の項目において、「はい」との回答は約1割であり、「あるにこしたことはないですし、希望です」とのご意見をいただいた。

### ○保護者への説明等

- ・「日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか」との項目において、全ての方から「はい」との回答をいただくとともに、「常に声かけしてくれます」との肯定的な意見をいただいた。
- ・「家族に対しての支援プログラムや家族に対しての研修会の実施」については、「子どもと一緒にでも参加しやすい企画があるといい」といった意見をいただいた。

### ○非常時等の対応

- ・各種マニュアルの周知・説明については、「マニュアルを見たことが無いので、分からない」とのご意見をいただくなど、周知方法については、工夫の検討が必要である

### ○満足度

- ・「こどもは通所を楽しみにしていますか」、「事業所の支援に満足していますか」との項目において、9割以上の方から「はい」との回答をいただくとともに、「学校へ行くよりも楽しみに通っている」、「丁寧で細かい説明や問題行動についてアドバイスや意見をもらえて感謝している」との意見をいただいた。

## 昨年度の振り返り

### ○今年度の取り組む具体策

- ・社内ツールの療育活動記録を月ごとに担当制で取り入れたい活動を共有する教室内ミーティングを行う。
- ・保護者の方の協力を得て、各種関連機関と都度連絡のとれる関係を作る。
- ・ブログやニュースレター等で、避難訓練の様子や、マニュアルについて周知を行う。

### ○改善できた点・まだ残る課題

- ・教室内ミーティングを行い活動内容の検討を行うことはできているものの、活動が固定化している部分もあるため、活動内容の工夫、検討が必要である。
- ・関係機関とは電話でのやり取りはできている。より良い関係を作れるよう、努めていく。
- ・ニュースレターにて、避難訓練の様子を発信しているものの、マニュアルについては周知できていないため、周知方法の検討が必要である。

## アンケート結果からみる教室の強み・改善点

### ○教室の強み

- ・保護者の意見に耳を傾けながら相談や支援方法などに対して、情報の共有や適切なアドバイスを伝えることができている。
- ・支援前にミーティングを行い、利用者一人ひとりの支援方法について確認することで、適切な支援を行うとともに支援力の向上を目指すことができている。

### ○改善点

- ・利用者定着、確実なスキル獲得のためでもあるが、集団療育が固定化しているため、活動内容の検討
- ・事業所内で家族に対しての支援プログラムの実施の検討
- ・緊急時の対応や感染症対応などのマニュアルの保護者周知方法の検討

## 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

### ○中長期的な改善計画

- ・集団療育が固定されているものが多いため、集団療育の活動内容の工夫する。
- ・事業所内で家族支援プログラムの実施を行う。
- ・緊急時や感染症対応などのマニュアルや教室での取り組みについて周知する。
- ・地域の中の1つの施設としての取り組みを充実させる。

### ○1年間で取り組む具体策

- ・ミーティングを通して月の活動を見直す機会を作ることで、集団療育の活動内容の工夫する。
- ・保護者会を実施し、保護者と子どもが一緒に参加できる活動プログラムの検討を行う。
- ・緊急時や感染症対応などのマニュアルについて、保護者会での周知や、ニュースレターにて周知する。